

むすんで ひらいて

第48号
発行日
令和3年9月

発行：福井市地区社協連絡協議会
〒910-0018福井市田原1丁目13-6 フェニックス・プラザ1階
(社会福祉法人 福井市社会福祉協議会内)
TEL 0776-26-1853 FAX 0776-26-9109

◆福井市社協のホームページからバック
ナンバーをご覧ください

新しいつながりの
選択肢

オンラインツールZoomの使い方を学ぶ 研修会を開催しました



Zoomとは

インターネット回線を利用し、遠隔地の利用者間で会議を行うオンラインツールです。パソコンやスマートフォンのカメラとマイクを利用して、音声や映像を伴ったやりとりができます。



実際にZoomを利用している画面

地区社協連絡協議会では、新型コロナウイルスが感染拡大する状況でも活動を継続するため地区社協役員を対象にオンラインツールZoomの使い方を学ぶ研修会を開催しました。

この研修は、6月から7月にかけて5回に分けて開催し、39地区42名の方が参加しました。①Zoomで出来ることがわかる、②Zoomの良いところがわかる、③Zoomでの会議に自力で参加できるようにするという3つのポイントを中心に学びました。

当日は市社協の職員が講師をつとめ、参加者が自身のノートパソコンを持ち込み、実際に操作しながら研修を行いました。参加前は、「あまりパソコンは得意ではないから……」と不安な声も聞かれましたが、研修に参加して、実際にZoomを体験してみること、「使い方が分かった」、「楽しく学ぶことができた」と、明るい感想が聞か

れるようになりました。

新型コロナウイルスにより、人が集まることに制限がかかる状況では、今までの方法に替わる新しい選択肢をもつことが重要です。今回の研修で使い方を学んだZoomも、そうした選択肢の一つです。今後も、各地区での会議や研修などの事業に取り入れられるよう、工夫を続けていきます。



研修の様子



染予防のため、書面決議での開催となり、対面での開催は2年ぶりとなりました。新型コロナウイルスの影響が長期化する中で、令和3年度は地域福祉活動の歩みを止めないために、ICTを活用した新しい取り組みをブロック会議や研修会等でも取り入れていきます。

令和3年7月29日の記録的短時間大雨では、光や川西ブロックを中心に住宅への浸水などの大きな被害がありました。そうした地区の地区社協では、被害状況の確認も兼ねてひとり暮らしの高齢者などへの声かけや安否確認を行いました。
災害など非常時での見守り・支え合いには、普段からの取り組みの積み重ねが大切です。今回の大雨では、そうした確かな積み重ねが実を結ぶこととなりました。



災害時の見守り活動



令和3年度 地区社協会長名簿

(敬称略)

地区名	会長名	地区名	会長名	地区名	会長名
あたご	木田 川中 洋治	あずま	和田 西村 晟	川西	大安寺 田安 敏男
	豊 山田 耕一		円山 野村 八重子		国見 刀禰 茂美
	足羽 川島 則勇喜		啓蒙 野路 恵子		鶉 清川 清治
	湊 梶本 重成		岡保 吉村 義昭		棗 堀 一夫
不死鳥	春山 近藤 輝彦	東藤島 杉本 攸介	鷹巣 庄納 庄次郎		
	宝永 松成 嘉實	西藤島 中田 欽也	本郷 松並 久太夫		
	順化 村田 眞一	中藤島 白崎 和子★	宮ノ下 小西 安一		
	松本 黒川 俊枝	河合 北川 幸秀	酒生 宮浦 知恵子		
	日之出 黒川 義規	森田 片山 美智子	一乗 坂下 義博		
	旭 渡邊 本爾	明新 高井 豊	上文殊 中川 邦男		
みなみ	日新 宮川 英樹	光	安居 牧野 忍 ★	足羽	文殊 乘川 重一
	清明 藤嶋 昭二		一光 竹田 法英		六条 寺横 紀廣
	東安居 竹内 清		殿下 竹原 健一		東郷 福岡 隆義
	社南 藤田 有道		越廼 刀禰 麒一		美山 辻本 治男
	社北 関西 愛子		清水西 野村 藤孝		
	社西 今富 廣子		清水東 高橋 隆夫		
麻生津 吉田 善久	清水南 荒井 彦一				
	清水北 平間 茂雄				

★は令和3年度新任の会長



~コロナ禍でも工夫して~

取り組んでいます、地域福祉活動



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域活動に様々な制限がかかる状況が続いています。そうした中でも、多くの地区社協では「今できることをやる」、「できるように工夫してやる」という考え方で、前向きに継続した地域福祉活動に取り組んでいます。



今回は、そうした取り組みを紹介します。

殿下地区 高齢者と子どもの交流事業



殿下地区では、8月4日に地域の高齢者と子どものふれあい交流会を行いました。この事業では、毎年夏休みに合わせ、地域の高齢者と小学生がゲームや遊びを通して交流しています。今年は感染予防のため、広い会場で十分に換気しながらの開催となりました。
当日は、高齢者も子どもも一緒に大玉のボーリングやビンゴゲームを楽しみました。また会の最後には、子どもたちが手作りのお菓子のプレゼントもありました。参加した方からは、「人と会う機会が少ないから今日は楽しい」、「子どもがいると賑やかでいいね」といった声があり、会場には参加者の楽しそうな歓声が響きわたりました。

国見地区 福祉委員研修



国見地区では、7月21日に福祉委員研修を行いました。年に1度開催しているこの研修は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により地区社協活動が制限されている中で、見守り活動を担っている関係者同士が顔を合わせる貴重な機会となりました。市社協職員を講師に、現任の福祉委員が改めて福祉委員の役割や活動内容を確認し、互いに情報を共有しました。

当日は、感染予防に配慮し、短時間の開催となりコンパクトな内容でしたが、多くの福祉委員、民生児童委員の皆さんが参加され、「担当している地区の情報を共有することは大切」「研修の場で、福祉に関する情報が得られるのはありがたい」といった声が聞かれるなど、有意義な時間となりました。

六条地区 見守りマップ研修



六条地区では、7月17日と7月31日に見守りマップ研修を行いました。当日は福祉委員、民生児童委員の他、各自治会長も参加し、マップを確認しながら地域の気になる方、見守りが必要な方について情報の共有を行いました。
この研修は六条地区では毎年行われているもので、例年は1回の開催で行うところを、今年は感染予防のため地区を半分に分け、2回での分散開催としました。
初めて自治会長として参加した方からは、「初めてこうした会合に参加した。マップ作りを通して、見守りが必要な方の情報を共有し、いざという時に備えていることがわかりました」との声や、福祉委員の方からは「見守りが必要な方の情報を共有することで、普段からどんな目配り、気配りが必要か気づくことができました」との感想が聞かれました。

大安寺地区

「おやじの広場」で男性が
参加しやすい場づくりを



大安寺地区は福井市の西部、日野川が九頭竜川に合流する合流点の西側にあります。松平家の菩提寺、大安禅寺を擁する地区でもあり、県外から多くの観光客が訪れます。10の自治会、380世帯、人口1,100人余りの小さな地区ですが、大安寺地区社協にはユニークな事業があります。それが「おやじの広場」です。

「おやじの広場」は、自治会型デイホームの一つで、平成22年6月24日の第1回開催から今年度で60回を数えます。自治会の集会場などで開催されるデイホームの多くは、参加者のほとんどが女性で占められていますが、「おやじの広場」は参加者を原則男性に限定しているところが特徴です。年6回、偶数月の最終木曜日に開催し、毎回20名程が参加しています。様々な講師を招いて講演会を開催することもあり、JICA青年海外協力隊に参加された方による諸外国の話、野菜づくりの話、健康維持の話などが人気です。中でも一番人気なのは、毎年12月開催の蕎麦打ち教室。朝からみんな蕎麦を打ち、昼には自分たちが打った美味しい蕎麦を食べられるところが良いと好評です。コロナ禍で思うように活動ができないことも多いですが、今後多くの方に参加していただけるよう、地区社協活動を進めていきます。

鷹巣地区

ふれあい 助け合い 鷹巣愛



鷹巣地区は、海水浴場として有名ですが、他に山あり、田畑ありと盛りだくさんの自然にあふれる地区です。また、福井市西部に位置することから、毎日素晴らしい夕日が望めます。近年は人口や世帯数の減少と少子高齢化が進み、高齢化率は約42%となつています。

社協としての活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域の方たちとの接触が制限されていますが、従来の活動を続けな

がら、特に見守り訪問時には季節に合った品物やお菓子にお便りを添えて訪問し、対象者との会話の中で困りごとや生活の変化がないか目配り、気配りをしています。

また、定期的に福祉委員会を開き、担当地区内での活動報告、情報交換を行っています。他の活動内容も、現福祉委員が「福祉とは？」を改めて真剣に考え、話し合い、活動の意義を実感できるよう意見を出し合いながら進めています。

コロナ禍で、「できない事」に対しあきらめる前に、「どうすればできるか」に智恵を絞り、固定観念を見直すチャンスと受け止めています。

鷹巣地区は、これからますます高齢化が進むと思われれます。ご近所、お隣、お互い様の心で助け合いが必要。鷹巣ふれあい福祉まつりのスローガン「ふれあい、助け合い、鷹巣愛」を合言葉に、安全で安心して住める鷹巣地区となるよう地区住民一人ひとりが高齢者、子どもたちを見守っていききたいと思えます。